



特別展

多摩川の

アユのみ

2月4日(土)~
3月12日(日)

府中市郷土の森博物館

〒183-0026 東京都府中市南町6-32

TEL: 042-368-7921

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

同時開催 郷土の森 梅まつり

※会期中の休館日はありません

開館時間 9:00~17:00(入場は16:00まで)
会場 本館1階 特別展示室
観覧料 博物館入場料でご覧いただけます
大人300円/中学生以下150円(4歳未満無料)
主催 府中市郷土の森博物館運営グループ
(公益財団法人府中文化振興財団・株式会社五藤光学研究所)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

- 館内では、マスクの着用と咳エチケットをお願いいたします。
- 発熱や咳など、体調に不安のある方は入場をご遠慮ください。
- 園内及び館内では、ほかのお客様と一定の距離を保ってください。
- 状況に応じて、入場制限を行います。
- 感染状況に応じて、イベントを中止する場合があります。博物館のHPIにてご確認ください。

 ご来場の際は、電車・バスをご利用ください。

京王線・JR南武線「分倍河原駅」南側駅前ロータリーから「郷土の森総合体育館」行きバス約6分
「郷土の森正門前」下車すぐ

特別展 多摩川のアユのみ

府中市の南端を流れる多摩川は、流路延長138キロの一級河川です。流域には様々な生き物が生息しており、独自の生態系を構成しています。また、流域の人々にとって多摩川は、漁業、上水や農業用水としての活用など、生活するために欠かすことのできない存在です。

そんな多摩川に生息する代表的な魚がアユ(鮎)です。江戸時代には、とれたアユが一級品と評価されて市場に流通していました。将軍に献上されていたことも知られています。さらに、昭和初期までは「見せる漁」として、アユ漁を主軸とした観光産業も盛んでした。

アユは多摩川における生態系の一部としても重要な存在です。水質汚染や水量減少などによる環境の変化で、その数は減った時期もありますが、近年では再び増加しており、現在でも多摩川を代表する魚と言ってよいでしょう。

本展示会では、そんな多摩川とアユに視点を定めました。江戸時代以降におけるアユ漁に関連する歴史や、アユのために使用した漁具などととも、生態系や環境の変化も含めて、多摩川とアユのかかわりを多角的に紹介します。

関連企画

○ 記念講演会 3回連続

日時：2月11日(土祝)

民俗「多摩川アユ漁の移り変わり」と観光

2月18日(土)

歴史「多摩川アユの江戸時代」

2月25日(土)

自然「多摩川アユの減少と復活」

各回とも14:00~16:00

講師：当館学芸員 NPO法人多摩川センター

会場：博物館本館1階大会議室

定員：60人

参加費：1,000円(3回通し)

往復はがきに住所、氏名、電話番号、返信用宛名を明記の上1月24日(火)までに下記宛先へ。(当日消印有効)

※応募者多数の場合は抽選となります

〒183-0026 東京都府中市南町6-32

府中市郷土の森博物館「記念講演会」係

○ アユかご(竹細工)製作実演

日時：2月11日(土・祝)、2月18日(土)

10:00~12:00 13:00~15:00

場所：本館1階エントランスホール

実演：関田徹也氏(竹細工職人)

アユかご



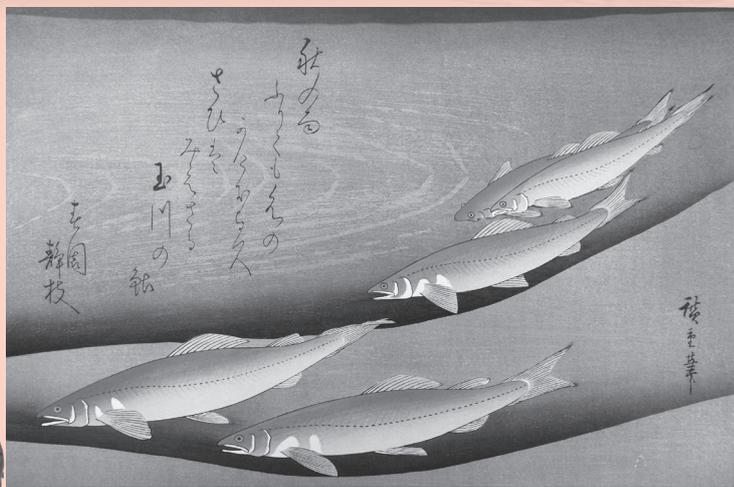
江戸~昭和初期に多摩川で行われていた観光アユ漁では、屋形船に客を乗せ、鵜飼や投網のアユ漁を見せていた



アユ竿で多摩川のアユ釣りを楽しむ人びと(大正時代)



多摩川を遊上するアユ



歌川広重画「魚づくしのうち 玉川の鮎」

府中市郷土の森博物館

〒183-0026 東京都府中市南町6-32 TEL: 042-368-7921 FAX: 042-360-8217

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

【交通アクセス】

路線バス 京王線・JR南武線「分倍河原駅」南側駅前ロータリーから「郷土の森総合体育館」行きバス約6分「郷土の森正門前」下車すぐ

府中コミュニティバス(ちゅうバス)

- 京王線・JR南武線「分倍河原駅」または京王線「府中駅」から南町・四谷循環バス「よつや苑西」行き「南町二丁目」下車徒歩約6分
- 京王線「中原駅」から南町・四谷循環バス「府中駅」行き「芝間稻荷神社」下車徒歩約6分

徒歩 京王線・JR南武線「分倍河原駅」、JR武蔵野線・南武線「府中本町駅」、西武多摩川線「是政駅」より約20分

